

## 謹賀新年

昨年中は、弊社事業に御尽力いただき、  
まことに、ありがとうございました。  
本年も、何卒よろしくお願い申し上げます。



さて、月間通信 2023 年 1 月号をお送り致しました。私事で恐縮ですが、今年は 70 歳という年齢に到達致します。孔子に依れば、『六十にして耳順い』『七十にして心の欲するところに従えども矩を踰えず』とあります。これを知ったのは五十代でした。当時は心配しました。『六十にして耳順い』は何となく、既にその兆候はありました。もっとも人の話しそのものが、聞こえていないという事はありませんでしたが、根が素直なので、むしろ人の話しに迂闊に乗らないようにとの、心がけが必要なくらいでした。

しかし、己の欲するところに従えば、いったいどうなるのかと思い、自分の前には余程広い道が用意されて

いなければ、踏み外してしまうと思ったものです。しかし、案ずるより産むが易しとは男性にも当てはまるのかどうか不明ですが、この数年来、まこと好きなように動き、好きなように口を利き、抑制とは無縁の如く時を過ごしています。でも、妙に矩を踰えないのですね。

ここの主客が微妙なのですが、五十代では矩が、意のままの私の前方に寄って来てくれるのだと思っていました。こうして七十を迎えるようになると、実は矩は定まっていて自分がその矩の手前に移動して来るようになるのですね。

これはどうしたことでしょう。私自身は少しも変わっていないように思うのです。相変わらず自分が今こうして皆さんの前に立てるのは奇跡ではないかと思うほど、好き勝手に生きて来て、この先もこのスタイルは変わらないと思うのに・・・です。実に不思議です。

もっとも、ひとが自分をどのように評価しようがまったく頓着していないので、その矩が如何であるかを考える事自体が、無意味なのかも知れません。

最近、マスクをしている方に違和感を覚えてしまいます。街を歩いても、電車に乗っても、スーパー・百貨店に入っても、まったくマスクの事は頭から離れています。まわりがマスクを着用されていてもいなくても、目に留まらなくなっていますが、目の前で話されている方が、ズれるマスクを直す仕草に、先の違和感を覚えてしまうのです。そろそろみなさん俗にいうコロナ騒動は、医学的見地ではなく政治的見地の作られた騒動だ、と気がつかれているのではないかと思います。

みんなが事実だと口を揃えれば、真実のところとは関係なく、それが事実としてまかり通ってしまうのが人間社会です。つまり Fake です。

政治は、ものの見事にその点を利用しています。次のパンデミックとか、ワクチン旅券とか、何なのでしょう。

習近平は、ライバルの鄧小平後継者の上海閥を、医学的に無意味なゼロコロナ政策で都市封鎖を繰り返し、経済をストップさせ潰そうとしているのでしょうか。先日の党大会では、江沢民を議場からわざわざ退出させるところを放映し・・・その後昨年 11 月 30 日に死去したそうです。

農業で利用する土壌菌の世界は、2 割の有用菌と 2 割の悪さをする菌といます。では残りの 6 割の菌は日和見菌と呼んでいるそうですが、どちらか優勢な方の菌の性格になびくそうです。

私たちの身体にも同様の細菌類が棲んでいると思いますが、斯くいう私たち自身が同様の動きを、知らず知らずのうちにしているのかも知れません。

もう一点、本当はこれを書きたくて正月早々あまり、らしくない画像を貼り付けたのですが、絵画です。レオナルド・ダ・ヴィンチ作だ、と言われていますが、そうではないという者もいて、判然としていません。これはアントワーヌ・ヴィトキーヌという監督が『ダ・ヴィンチは誰に微笑む』というドキュメントフィルムを撮り、それを観た感想をどうしても書いてみたかった。何故なら最近の世相を現わしていて、コロナ騒動や地球温暖化説、プーチンのウクライナ侵攻報道に、とても共通点があるように思うからです。

事の成り行きはこうです。絵画は『サルバトーレ・ムンディ』と名付けられ、1500 年頃に描かれたキリストの肖像画です。何分 500 年前の事だから次に足取りがあるのが 1958 年という事です。この間仏国から英国へと王室を渡り歩き、1763 年以降行方不明になったという事なので、この年に何があったのか調べました。英仏間で印度・北米の植民地争いに決着を付けたと、他人の家に土足で上がり込んだ同士が争い、勝手に領有権を決めた、というふざけた歴史があるだけで、この絵に直接関係がありそうな話しは見つかりませんでした。おそらく、分捕って来た美術品の中のものひとつで、どうでも良かったのだらうと思います。

で、先の 1958 年にオークションに出された記録が残っているらしく、その記録によると贋作として 45 ポンドだ

ったそうです。眠っている、つまり誰にも気づかれず存在している著名画家の作品を発掘して、金儲けするハンターという仕事があるらしいですが・・・そのひとりが、2005 年にカタログに載っていたところ、勘を働かせて『これこそ・・・』と思ったのか、仲間と二人で 1175 ドル出資して我がものとなりました。ドキュメントではその絵画は黒いビニールのゴミ袋に入れて自転車で運んでいる場面が出ていました。世界的修復師の手に依って修復され、ダ・ヴィンチの真筆作であると言われ始めます。言われ始めると書くと誤解を招くかも知れない。倫敦ナショナルギャラリーが世界的権威の鑑定士 5 人を集め、結論を求めたところ、真筆 1 名、保留 3 名、贋作 1 名の判定結果でした。

『何だ、その結論は!!』と関西人なら突っ込みたくなりますが、ナショナルギャラリーでその後展示したらしい。煙が立ったのなら儲かるのではないかと、その後の 2013 年有名なサザビーズのオークションにおいて 8000 万ドルでイブ何某かの美術商が落札しました。ドキュメントでは、このイブ何某かは、転売できるかどうかヒヤヒヤものだったと告白しています。ロシアの富豪に、ロシアの富豪と聞くだけでどんな儲け方をしたか想像がつくが、何と 1 億 2750 万ドルで転売した。この時、もうひとつ別なドキュメントでは、間に入った人物がまた、海千山千のハツリ男で、実にネゴの上手い人物、舌が 2 枚どころか 3 枚 4 枚あるような男で、後にロシア富豪に詐欺として訴えられていた。ところが更に続きがあり、由緒あるクリスティーズのオークションにかけられるやいなや、4 億ドルの価格で落札された。手数料が 5000 万ドルというから、すごい手数料です。わずか数%の手数料で日夜一所懸命双方の役に立とうと頑張っている自分が痛々しい。

17 年間で 1175 ドルが 4.5 億ドルになったという物の見方の話しでした。落札はサウジの王太子らしいが、石油ビジネスを諦めて、観光立国にしたいのか。

正解だと思う。